

## 平成30年度まちかどミーティング会議録

開催日 平成30年10月26日（月）

地 区 錦町・本町地区

会 場 文化交流センター「アイビープラザ」（1階多目的ホール）

### <町内会からの要望>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。町内会からの要望に関する意見交換につきましては30分間とし、残りの時間を当日参加者との市政に関する意見交換の時間といたします。あらかじめお配りをしております町内会からの要望事項に従って進めてまいります。

初めに、各町内会ごとにそれぞれの要望内容に関しまして改めて趣旨説明や補足が必要な場合については説明をお願いしたいと思います。一通り全町内会の説明が終了した後に要望全体を通じての質疑応答を行いますので、進行に御協力お願いいたします。

町内会からの趣旨説明の前にですね、今回はナンバー17の草刈りの件で、環境衛生部長の方から補足の説明がございますので、説明の方をまずよろしくお願いいたします。

◎環境衛生部長 後ろの方から失礼いたします。環境衛生部長をしております椿と申します。町内の美化活動ですとか、ごみの収集に対して、町内会の皆様に大変お世話になっております。

大町寿町内会様から2か所の草刈りについての御要望をいただきました。回答にも記載しておりますとおり、苫小牧市におきましては空き地の雑草等の除去に関する指導要項というのを平成2年に制定しております。御要望いただきました箇所につきましては、早速現地確認の上、所有者の特定を行いまして、所有者の自宅訪問を実施いたしました。お会いできた場合につきましては、直接草刈りのお願いをいたしますし、御不在の場合には文書にてお願いをしているところでございます。今回提出した回答資料には間に合いませんでしたけれども、御要望いただきました2か所については、いずれも草刈りが完了していることを確認してございます。

今年は10月に入ってから御連絡をいただいたわけですが、年によっては夏の期間に空き地に草が生え放題の場合、毒蛾などが発生することもございますので、どうかぎりぎりまで我慢なさらずに、市の環境生活課の方まで御連絡いただければ、所有者の方に草刈りをお願いしてまいりますので、よろしくお願いをいたします。以上でございます。

○司会 それでは、町内会からの趣旨説明の方に戻りたいと思いますけれども、発言の際にはマイクをお渡しいたしますので、町内会名とお名前を述べてから、要点を簡潔

に発言をお願いいたします。

初めに、一区町内会さんから提出いただいた要望は、1番から5番までとなります。これにつきまして、一区町内会さんから内容についての趣旨説明や補足などがございますでしょうか。よろしいですか。はい。

それでは、続きまして、6番から10番までの要望は二区町内会さんから提出されたものがございますけれども、こちらについて二区町内会さんから趣旨説明や補足等がございますでしょうか。

◆市民 ありません。

○司会 はい、ありがとうございます。

最後に、11番から18番までの要望につきましては、大町寿町内会さんから提出されたものでございますけれども、これにつきまして趣旨説明や補足等がございますでしょうか。

よろしいですか。はい。

それでは、ないということがございますので、これら町内会要望の質疑に入りたいと思います。これら要望に対する市の回答について質問がある場合は、挙手の上、マイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前、何番目の要望に関する質問になるかをお話しただいてから簡潔に発言をお願いいたします。

どなたかいらっしゃいますか。町内会から要望事項についてですけれども。

はい、お願いいたします。

◆市民 一区町内会の■■■■といます。1番目の駅前南口の開発について、この前担当者からコメントをいただいているのですが、先日、民報にある会社の社長さんのコメントが出ていましたね、考え方が。まだ1人権利者がいるよという話だったので、それでなかなか市の方の説明も、開発が進まないし、今後どうするかということが課題になってずっときていたのですね。それがこの前、その社長さんが民報に大々的にああいう話を出していましたが、それとの兼ね合いで今後どうなっていくのか。何かあそこに三星の本店、昔、三星さんがありましたから、あそこにそういうものを建てるとか、あるいは市には出さないけど、売らないとか、いろんなことを言っていましたけれども、この辺のことについて、市の考え方をちょっとお聞きしたいなと思ってお願いします。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎市長 駅前のサンプラザ問題でありますけれども、あそこは、中には元々、市の所有地で、建物も市が持っているというふうに思われている方が結構いらっしゃるのですが、実際は市の所有地は一つもないのです。それから建物の権利も市が持っていたわけでもありません。株式会社サンプラザという民間企業が経営が難しくなって破産手続を裁判所にしました。最初の申請は却下されましたが、また2度目申請をし、裁判所はそれを受理して、当初、保全管財人が選定されました。これは札幌の弁護

士さんです。弁護士さん、あるいは裁判所の協議によって、あそこは結構地権者が多かったのですね、いろんな方が。しかも、苫小牧だけではなくて、東京におられる方もいる、あるいは相続されている方もいるのですが、結果として、我々、裁判所の意向を受けて、一人一人説得をして無償譲渡に御了解をいただきました。最後に残ったのが新聞に出ている方と、建物でもう一人がなかなか合意していただけませんでした。しかし、粘り強く市の担当者に頑張ってもらって、その建物のお一方からは合意をいただきまして、建物は今全て市の所有になっています。今はそうですけれども、裁判所が入って、株式会社サンプラザの破産手続のプロセスで裁判所の意向を受けて市が所有をしていることになります。

ところが、土地は30件近い地権者がいましたが、多くの皆さんは、いろいろ時間がかかった方もいました。いましたけれども、市に無償譲渡していただきましたが、お一方5筆、5つの土地、今ばらばらなのですが、お一方5筆だけがまだ御了解いただいていない。何もしていないわけではなくて、我々としては直接お会いするというふうにも考えていますけれども、なかなか相手の方も、相手の方のお考えがあるということで。しかし、我々水面下ではいろいろな動きもありますけれども、今日現在、まだ御了解をいただいていない。これ、我々裁判所との間でやっていることですから、100%無償譲渡の合意をいただかないと、市にボールが来ないのですね。市にボールが来たら、次のアクションについては議会でもその考え方は何度もお示しをしています。ただ、まだボールが来てないものですから、そこはなかなか。裁判所は100%その同意をもらう前に結果的に結論、着地をしたのです。株式会社サンプラザの破産手続きを終了したのです。これはなぜかという、株式会社サンプラザにお金が残っていなかったからなのですね。破産管財人を動かすにも費用が要ります。大体普通はその会社の残っているお金でそういう作業をやるのですが、それが底をついてしまったという背景が。これ、裁判所はそうだと言いませんけれども、我々は、はたから見ているように感じます。

もう一つは、市が一生懸命汗をかいて、もうほぼ90%近い人から無償譲渡を成し遂げたということで、裁判所としては一つの着地をしたのですが、当時の破産管財人、札幌の弁護士さんですが、今でも非常に関心を持っていただいて、状況については非常に詳しく知っていました。先般、たまたま会ったのですけれども、非常に詳しく、まだ心配をされていました。そのお一方からもさまざまなことを言われていることも事実ですが、それ以外のことは皆さん結果として無償譲渡しているのに、お一人だけその条件をのんだら、今まで無償譲渡に了解してきた人が黙っているはずがないのですね。そういう意味で時間はもう少しかかるかもしれませんが、基本的には無償で譲渡していただく。そこで初めて市にボールが来る。そこで初めて市は次の具体的な駅前再開発について動くことができるという流れになります。これは、飽くまでも市民の話ではなくて、裁判所が入って株式会社サンプラザの破産手

続のプロセスでこのような経過があったということでもありますので、しかも市の土地だったらいいのですけれども、あるいは建物も市の建物だったらいいのですけれども、最初は全部民間の土地、あるいは建物でありましたので、なかなかそういう難しいところがあります。

我々は裁判所との協議を行ってきた経過がありますので、そこは是非、御理解いただいてですね、まちのために決断をしてほしいというふうに私は思っております。

○司会 それでは、その他に町内会からの要望事項に関しまして、御意見、御質問のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。特にないようでしたら、次に進みたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、次に進めさせていただきます。

#### <当日参加者との意見交換>

○司会 次に、当日参加者との市政に関する意見交換の時間に移りたいと思います。

多くの方に御発言をいただけますよう、発言は簡潔にお一人1件ずつをお願いいたします。残りの時間に余裕がございましたら改めてお伺いをいたしますので、よろしく願いいたします。なお、町内全体に関わらないような個人的な要望や苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接お話をいただきたいと思います。

本日のまちかどミーティングは、一区町内会、二区町内会、本町町内会、幸町町内会、高砂町町内会、大町寿町内会にお住まいの方を優先させていただきますので御了承ください。

それでは、市政に関しまして日頃お気付きの点や御意見のある方は挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいませんか。一番奥の方、お願いいたします。

◆市民 一区町内会の■■■■と申します。

今日の内容に適するかどうかちょっと分からないことなのですが、私、北光町の未来の森公園に農園を市が貸していただいて、そこで農地をお借りしてやっているのですけれども、今年は鳥獣被害がひどかったのです。特に、皆さん言っていましたけれども、鹿の被害がすごかったのです。そういうので皆さんちょっとやる気がなくなった方も結構いらっしゃいまして、今後もそういう、来年等も鹿の被害等があるようですと、そういう畑をやりたいという方も減っていくのではないかと思います。そういうことに関して、何か市が対策を練るといふことがあるのかというのを伺いしたいと思います。お願いします。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎都市建設部長 都市建設部長をしております栗野と申します。よろしくお願いいたします。

北光町の未来の森公園の畑の部分で、動物被害に最近遭われているということでもございますけれども、北光町の農園の部分には、低いのですけれどもネットみたい

な一応動物除けといえますか、そういったフェンスはあるのですけれども、やはり鹿となりますと大型でございますので、そういったものでは対応できないというところで。私は北光町未来の森公園を指定管理をやったときにちょっと担当していたのですけれども、その当時はそういった動物もまだ来てなかったという状況でございますので、だんだんちょっと町の方に動物が下りてきているのではないかなというふうには思うのですけれども、市としてそういった鹿害というか、受けているところは、例えば錦大沼公園にハナショウブ園というのがございまして、そちらが昔かなり花の部分の鹿に食べられてしまったという経緯がございまして、今はちょっと高いフェンスを設けることによって、そういった鹿からの食害というのを防いでいるという状況もございまして、ちょっと指定管理の方とも相談しながらそういった対策について今後検討してまいりたいなというふうに考えてございまして、よろしくお願ひいたします。

○司会 それでは、その他にございますか。

◆市民 寿町の[ ]でございます。

まず、お手元に資料を配布してございまして、これを見ていただきたいと思っております。ちょっと私、風邪がございまして、声患いしておりますので、お聞きづらい点が多々あると思っておりますけれども、よろしくお願ひします。

胆振東部地震に関する件につきまして、何点かお聞きしたいと思っております。

初めに、本当に簡単なことをお聞きするのですけれども、胆振東部地震の震度と震源について、深さ、浅さ等についてちょっとお聞きしたいと思っております。それが1点。

次に、北海道の活断層が8か所と言われておりますけれども、この案件を見ますと、あと2か所が増えておりますので、その点の整合性についてお聞きしたいと思います。

4番目として、苫東厚真火力発電所の耐震構造のことについてもお聞きしたいと思います。座ってよろしいでしょうか。

○司会 すみません、どうぞ。

◆市民 お手元のページの後ろから2番目でございますけれども、質問の要旨ということでここに聞いてございまして、北海道活断層と苫小牧市が想定している苫小牧沖の安平川沿いにある馬追断層。それから、隈根尻上昇帯についてお聞きしたいと思います。これは図面の一番後ろに書いてございまして、一番後ろにある図面でございますが、赤に塗っている部分がこれが活断層でございます。6番目にあるのが石狩低地東縁断層帯というのが、今、震源の源でございますので、この点についても。当初は、これは石狩低地東縁断層じゃないというふうに言っておりましたけれども、その後いろいろ調べた結果、それらしいというふうに報告の内容を変更したというふうに今いろいろな先生方もお話をしておるということを明示して

おります。その辺についてもお聞きしたいと思います。

それから、マグニチュード6とか4とかといいますと、マグニチュードの数字と、それから震度の違いですか、マグニチュードというのは規模でございまして、それから震度というのは揺れでございまして、その辺の整合性についても若干お聞きしたいと思います。

次に、苫東厚真火力発電所の耐震構造についてお聞きしたい。厚真の発電所の耐震構造は5というふうに聞いておりますけれども、発電所そのものは民間の建物でございまして、やはり作っておるものが電力でございまして。北海道全体の規模の5割は苫東厚真発電所から作られて供給をしておりますので、これはもう十分公共性があるというふうに我々は認識してございます。そういう観点からして、行政の指導として6以上を耐震構造化しなさいという行政指導をしておりますけれども、この点についての整合性についてお聞きしたいと、このように思っております。

もう一つは、そこの付近に備蓄がございましてね、国家備蓄と民間。そのタンクが石狩低地東縁断層の位置に合致するのかわからないのか、その辺についてもお聞きしたいと思っております。以上でございます。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎危機管理室主幹 市役所で防災を担当しております危機管理室の前田と申します。よろしくお聞きいたします。

今、大きく何点か御質問ありましたけれども、まず活断層のお話です。今、お話があった断層ですけれども、活断層と呼ばれているものは馬追断層と言われているものが一つです。もう一つは、活断層ではないのですが、ひょっとすると断層かもしれないと言われているものが、隈根尻上昇帯と言われているものです。今、皆様お手元に資料がございまして、ちょっと資料の方を御覧いただければと思うのですが、一番最後のページですね。今、XXXXXXXXXXさんの方からお話ありましたけれども、馬追断層につきましては、この北海道地図にあります6番目、石狩低地東縁断層帯という活断層の何本か集まった固まりです。この中に馬追断層はあります。具体的にいきますと、追分、安平の方に安平山ってありますけれども、その安平山の辺りから南の方に大体15キロ、遠浅の方まで続いている活断層、これが馬追断層と言われております。それと、隈根尻上昇帯につきましては、これ先ほども言ったとおり、断層かどうかは分からない、断層かもしれないと言われているのですが、具体的には美園町辺り、ちょっと具体名を言って申しわけありません。美園町辺りを皮切りに、海の方からやはり同じく山に向かっていくと15キロ程度に断層があるかもしれないです。もし、これが揺れたときに、相当、直下型地震ということで大きな被害があるだろうと言われているものであります。これが1点目の回答ということになります。

それと、マグニチュードと震度というお話がありました。今回の北海道胆振東部

地震におきましては、マグニチュードは6.7でした。最大震度は、厚真町におきまして7ですけれども、苫小牧市においては震度5強でした。実は、このマグニチュードと震度ってどう違うのかですけれども、マグニチュードについては、地震のエネルギーの大きさのことを言います。震度については、文字どおり揺れの大きさのことを言います。ちょっとイメージとしましては、例えば水面に石を投げますよね。石を投げると波紋が広がりますよね。そのイメージなのですけれども、じゃ、その投げた石の大きさ、石の大きさがどのぐらいの大きさか、小石だったのか岩だったのか、この石の大きさのことをマグニチュードと思ってください。これ落とすと波紋広がりますよね。そうすると、落とした石の近くは、波紋の高さって高いじゃないですか。これがだんだん広がっていくと、その波紋の高さって小さくなっていきますよね。同じ考え方です。震度については、ですので今回で言うと厚真町が震源でしたので、その辺りは震度が大きかった、遠くになるにつれてだんだんその震度は小さくなっていく。ただ、なかなか難しいのは、今回、地質の問題もありましたので、札幌の方ではちょっと距離が離れているのに6あったということがありますけれども、イメージ的にはどのようなことで御理解いただければと思います。活断層系については、以上かと思えます。

それと、大きな2番目といたしましては、今度は北電の関係でしたね。北電の関係は、ちょっとすみません、ちゃんとしたお答えにならないかもしれませんが、今[ ]さんの方からは、震度5程度の想定しかなされていなかったということですが、耐震のお話をしますと、建物そのものは耐震基準で言うと6強とか7に耐えられる建物だったと思います。ただ、設備的には震度5という想定だったのかなというふうに思っております。

今、この苫東厚真火力発電所については、政府が公認した第三者検証会ですとか、あるいは国の経済産業省、こういったところでもさまざま検討しております。一番いいのは、厚真発電所が止まらないことが一番いいのですけれども、今、国におきましては、今回ブラックアウトといいますけれども、大規模停電が起きた、それが何で起きたのですとか、それが今後起きないようにどうするかということを検証しております。また、北海道電力さんにおいても、もしも厚真発電所が止まったとしても、今回のような大規模停電が起きないように、例えば本州から電気を送ってくるですとか、あるいは厚真だけではなくて石狩湾の方に新たな発電所を造って、仮に厚真が止まったとしても大丈夫なようにしようというような対策をとっております。市としましては、まずはこういった動きをしっかりと見ていきたいというふうに思っております。その上でなのですけれども、市としましては、起きないことが一番いいのですけれども、もしもそういった停電が起きたときにどうするかということで、例えばですけれども、避難所の方に発電機、小さい発電機ですけれども、そういうものも用意をさせてもらっています。そういったような、市としても停電

のときの対応ということはしっかりやっ払いこうというふうに思っております。

併せまして、皆様方にもお願いしたいのは、もしもこういった停電があったときに、皆様方の中でも停電に備えていただきたい。例えば電気がなくても大丈夫なようなカセットコンロですとか、ポータブルのストーブを用意いただく。あるいは懐中電灯を用意していただく、あるいは昨今やっぱり皆さん携帯電話、スマートフォンお持ちですので、そういったものに対する充電器、こういったものを用意していただいて、我々行政も頑張りますけれども、皆様の中でも停電に備えていただくということをお願いしたいですし、我々もそこはしっかりと周知していきたいということで、正面を切った回答ではありませんけれども、苫東発電に対する回答とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、その他にございますでしょうか。

失礼いたしました。回答がまだ続きますので、よろしくお願いいたします。

◎消防本部総務課 すみません、失礼しました。消防本部総務課の小野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど苫東の備蓄のタンクのお話がありました。その件に関しまして、簡単に御説明させていただきます。

苫東のタンクにかかわらず、屋外の貯蔵タンクにつきましては、過去に発生した地震等を教訓に技術基準を国等と見直しを何度も重ねてきております。また、近年いろいろ報道等でもございます南海トラフの巨大地震だとか直下型地震が最近でもございました。そういうことも踏まえて、国主導によりまして平成26年度から平成28年度の3か年で耐震安全性確認のための調査検討会議というのが開かれて、苫東の備蓄タンクのことについて検討しております。当然、この中には先ほどおっしゃられた石狩低地東縁断層帯南部の地震想定も今北海道からは出されておまして、そちらの方の地震も踏まえた上での検討が重ねられていたということになっております。この検討会議では、現行の耐震基準、タンクの耐震基準でもおおむね致命的な被害はないだろうということで結論付けられた結果、本年9月6日の地震、実際は厚真町で震度7がございました。その中でも大きな被害がなかったというのが実際でございます。これはタンクを建てる際には、ある程度頑丈な地盤と、あと液状化対策等が行われていることによりまして、また構造も消防法上厳しい基準になっております。そういうことから今回の地震でも流出等の大きな被害がなかったということでございます。消防本部としては、今後も国等といろいろ調査、あと連携等しながら、地震等のたびにいろいろ見直し、検討等がありますので、引き続き調査等を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○司会 それでは、その他にございますか。一番前の方、お願いいたします。

◆市民 大町の■■■■です。本当は、この場所でなくてもよかったのですが、夜の



各町内で常夜灯というのですか、大町の親不孝通りのところの場所では、大町1丁目の1のちょうど親不孝通りとすずらん通りのところの道路1本裏になるのですけれども、建屋の裏通りにベニバラというスナックがあるのです。この前、昨年焼けたところですね、ふるいちさん、あるいはラーメン店のところなのですけれども、そのちょうど焼けたところの、今営業している居酒屋宴だとかありますけれども、その建物側に通路があるのですよ、細い小路。その角のちょうど親不孝通りから入るところについているのですけれども、点滅しているのですよね。これは、担当者が町内会にもいるのですけれども、ずっと春から点滅しっ放しで、夜になると明るいときは明るい、5秒かそれぐらいでぱっと消えちゃうのです。またついて、また消えてと。それと、昨年12月8日に大町の角の大火がありまして、そのところの電柱がちょうどあそこの千曲さんという焼けたところですね。そこに常夜灯みたいのがあるのですけれども、その線がもう切れて、いまだについてないです。それで、あそこを通る店、スナックもありますので、ちょっと調べていただきたいなと思って。うちの町内会の担当もいるのですけれども、なかなか顔も見たことないので、ちょっとすみません。ちょっと調査してつけていただければなということをお願いしたいのです。

○司会 それでは、市からお願いいたします。

◎道路維持課副主幹 市道を管理しております道路維持課道路管理事務所の小田と申します。

このたび照明がついたり消えたり、あとは消えっ放しになっていたりということ、大変御迷惑をおかけしました。申し訳ございません。

それで、4月からということなのですけれども、市内も各所、今回の地震ですとか、あと台風の塩害で各所いろいろ照明が消えたりとかもしておりますので、後ほど詳しい場所をちょっと教えていただきまして、場合によりましては防犯灯、ものによっては道路の照明灯ということもありますので、現地を確認させていただきまして対応いたしますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、その他に。お願いいたします。

◆市民 もう一点お聞きしたいと思います。

樽前山噴火についてのことでございますけれども、樽前山という山は、今から9,100年前に誕生した噴火山としては誠に新しい山でございます、さまざまな規模の噴火が起こっていることがありますけれども、我々聞いているのは、70年周期というのですか、70年に1回の周期で大きな噴火があるのだというようなお話を聞いておりますけれども、この文献を見ますと、北大の名誉教授の宇井さんがここで発表しておりますけれども、今のところは小康状態だと。それで、小噴火や何かが起きるのは珍しくないことであって、だからといって大きな噴火にはならないよと。このように位置付けをしてございますけれども、今、御嶽山のように突然噴

火をするというようなこともございます。そこで、苫小牧市としましても、樽前山にこのごろ観光客が増えてまいりまして、年間で25万から30万の登山者がおるといふふうに聞いております。これが、全部が登山名簿に載っているか載っていないか分かりませんが、そのようなことで登山者に対しての避難のパンフレットと申しますか、リーフレット、そういうものを作ったらどうかというふうに考えておりますけれども、その点いかがでしょうか。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎危機管理室主幹 防災担当しております危機管理の前田でございます。樽前山の関係のお話でございますけれども、今[ ]さん御指摘のとおり、樽前山は活火山であります。70周年噴火説についてちょっとだけ説明させていただきたいと思っておりますけれども、樽前山いろんなタイプの噴火します。大規模噴火、中規模噴火、小規模噴火という大きく3つの噴火がございます。その中で大規模噴火、マグマ噴火ですけれども、これが最後にあったのが1667年、江戸時代です。この後に1739年噴火しています。ここ70年なのです。この後に中規模な噴火が1820年頃まであったということを言われています。これ70年です。これで70年周期ということをよく言われているのですけれども、最近で言いますと、中規模な噴火が起きたのは1909年です。明治です。この後、中規模噴火って起きてないのです。1978年から81年に小規模噴火がありましたけれども、中規模噴火、マグマ噴火レベルはあれから100年起きていないのです。そのことから言いますと、先ほど宇井先生のお名前出ましたけれども、宇井先生のお話ですと、そういう周期はないのです。周期はない。その代わりいろんな今、気象台はじめ、いろんな観測機器を備えていますので、しっかりその予兆を捉えてしっかりと対応していこうということで、周期にこだわるのではなくて、やはりどういった噴火の予兆を捉えてしっかりと、我々行政もそうですし、市民の皆様にも対応していただくということが大事かなというふうに思っております。

それで、登山者向けのパンフレットというお話でございますけれども、確かに樽前山は非常に登りやすい山ということで、外国人の方を含めまして大変登る山であります。私ども苫小牧市は、苫小牧市だけではなくて気象台ですとか国の機関、北海道含めて協議会を作っています。樽前山火山防災協議会という協議会を作っております。この協議会の中でパンフレットは作っております。最近で言いますと、平成27年にちょっとリニューアルをしたパンフレットは作っております。ただ、今の御指摘から言いますと、その周知がちょっと足りないかなというふうに思っておりますので、このパンフレットの周知はしっかりやっていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○司会 それでは、その他にございますか。はい。

◆市民 幸町の[ ]と申します。

要望が2点ございます。1点は苫小牧駅前南口、あそこに駐輪場を設置していただきたいという要望でございます。春先からの道胆振総合振興局と市のまちづくり推進課で御検討いただいておりますが、基本的に商店街組合と道の方でやるという協定になっているという話で、それは理解できます。ただし、現実の問題として、鉄路苫小牧の玄関、あの本郷新先生の彫刻、小川先生の彫刻のある中が二重三重に自転車が放置されている、あるいは駐輪されているという実態が半年たっても改善されていない。もう少し市として真剣な対応と。それから観光客が来る。特にあそこは東横インとかルートインのお客さん、海外の人も国内の人もいらっしゃるものですから、現実には通行に支障を生じている状態もでございます。そういう意味で、是非駐輪場の設置を御検討いただきたいということが一つでございます。

その次に、先日、苫小牧市立図書館要覧、これを拝見させていただいて、この図書購入費2,200万だとか、刊行物250万等という決算がぴちっと整理されています。ただ、購入費が何千万、トータルで3,000万近い金が出ているということでございますが、本の購入冊数、それと除籍冊数、この表示が何もございませぬ。やはり、市民の財産だと思います。当然、購入するからどういう分類の本を何冊買ったかという注文の段階で分かると思います。そういう意味で、図書館要領、要項には是非購入冊数と、やっぱり財産ということを考えて、除籍冊数、これを明記していただきたいというのが1点と。もう一点は、どういう基準で選ばれているか。多分、それは図書館の委員会で決めているのだということになるかと思いますが、テレビ、新聞では報道しない、いわゆる政治、芸能人のスキャンダルを主体として出している週刊文春、あるいはじゃらんだとか、それから旅行雑誌だとか、あるいは週刊新潮という、私に言わせれば三文週刊誌がやっぱり購入されて、それが図書館として購入するに値する基準なのかどうかという点。教育部局の方がいらっしゃるればお聞きしたいなど。図書館に関係してはこの2点でございます。以上です。

○司会 それでは、回答の方をお願いいたします。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の小山内と申します。よろしく申し上げます。

今、言われた駅前に駐輪場ということだったのですけれども、一度お話しさせてはいただいております。それで、駅前広場自体、今後バリアフリー等を含めて再整備していこうという考えは我々も持っていて、管理者である胆振総合振興局と協議会を持っていろいろ今まで協議をしてきた経過はあります。ただ、駅前の関係でe g a oがああいう状態になりまして、今、その再整備計画が実はとまっています。ただ、その中で駐輪場のあり方ですとか、そういったことも検討していくことになると思うのですが、今、動いてないといった中で、何もしないというわけにはいきませんので、e g a oのビル、フェンスで今囲ってはいるのですが、その一番北側ですね。実は3メートル程度ちょっとセットバックしています。そこ

の部分に、今年、自転車ラックを少し増設をしまして、自転車をそこにとめられるような形を今とっています。ただ、現状を見ると、そっちの今あけている部分、自転車があまりとめられていなくて、実態的には駅前の広場の中に今とめられているといった経過もありますので、胆振総合振興局とは協議はしていますけれども、改めてその辺のことを伝えて、できればその推移を待つのではなくて、できれば移設してほしいというようなことをお願いしてまいりたいというふうに考えています。以上でございます。

◎副市長 副市長の佐藤でございます。図書館、中央図書館のことだと思いますけれども、書籍の購入の数だとか、それから廃棄といった方が分かりやすいと思いますので、古くなった本の廃棄の冊数だとか、あとは購入の基準ですね。どういった基準で新しい本を購入されているかというお尋ねだったのですが、申し訳ありません、本日これだけ人数いるのですが、教育部局の担当の人間がちょっと今日、不在でございまして、来週、早々になっちゃいますけれども、間違いなく月曜日に連絡させますので、後ほど担当の方に連絡先を教えてくださいたいと思います。間違いなくこれは教育の方に伝えてお答えをさせていただきますということで、今日のところは申し訳ないですが、御理解ください。お願いします。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、その他にございますでしょうか。はい。

◆市民 大町の■■■■です。全く町内会とかには関係ないのですが、あそこのシャケが上がってくる所、錦多峰の捕獲場ありますよね。シャケを産卵させて、それのとったあれは漁協の権利ですかね、あれは。そのシャケのホッチャレの全部さばいたやつを肥料か何かに使っているのですか、それとも私らは分からないのですが、市民にトバを作るのに安く売って、販売とかと、そういうようなことはできないものかなと思って。

○司会 ちょっと難しい御質問いただきましたけれども、どうでしょうかね、市政の観点ということになるのか、ちょっとあれですが。

◎市長 事実確認をして月曜日にお知らせします。ちょっと分かっている人が今ここにいないので。

○司会 それでは、ちょっと後ほどお話を再度お伺いさせていただいて、また対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、はい、女性の方、お願いいたします。

◆市民 私は大町の■■■■で、すぐそばなのです、このセンターの。それで、実は市役所の中の危機管理部に行きまして、市長さんの所は行かなかったのですが、そうしましたら、このセンターは、夜の9時から朝の9時まで開かないということ、戸が開かないというのですよね、ここの戸が。玄関の戸が開かない。それで、昼間は入れるのですが、夜が入れなかったら、もし災害、例えば津波でもあった

ときに入れないので、大体、距離として私が一番先に来れる状態なのですね。それで、そうしたら、入れなかったら津波が来てしまうと、人はどうか知らないけれども、私が困るので、それで、じゃあ、私がここを割りますと。それで表のドアに網が入っているのですのね、4階まで。割れないので、じゃ事務所の南側のガラスを私が割りますと言いましたら、割ってくださいと部長さんに言われました。それで、市役所の部長さんに許可を得ましたけれども、ここの館長さんに許可を得ていないので、館長さんにも、こういうわけで。遠隔もないのですってね、遠隔操作もなく当直もなく、そうしたら一体誰が開けるのですかと。どこからか係の人が来て開けるのでしょうかということ。そうしたら私が割りますと、ここの館長さんにも許可を得ました。それで、じゃあ何で割るのかと言いましたらね、金づちでは割れないそうです、そこね、南側の事務所。それで、私は手まさかりを今用意しているのですのね。金づちではこのくらいですから、全然、効かないのですね。手まさかりは打つところが多いですし、あれ力がありますからね。うちにあるのです、なたでも何でもありますからね。何、言っているって、ちょっと■■■■さん、これ大事なことを今、聞いているじゃないですか。それで、これ、ここは開かないということで、やっぱり割らなきゃ駄目ですか。

○司会 それでは、よろしいですかね。お願いいたします。

◎危機管理室主幹 危機管理室の前田でございます。

津波のお話でございますけれども、この文化交流センターにつきましても、市の方では津波対策ということでは、津波避難ビルというものを指定してございます。今、御指摘のこの建物も津波避難ビルとなっております。その際の前提条件といいますのは、24時間運用できる建物ということなのですが、今、確かに御指摘のように夜は閉まっております。それで、私どもどういうお話をしているかといいますと、ここを管理している会社さんの方に、もしもそうなった場合にはここを開けていただく、早々に開けていただくということでお話ししているという状況ではあります。ただ、皆様来ていただいたときに、すぐに開くかどうかというところは確かにありますので、この点については再度確認をさせていただきたいと思っております。

もう一点、この際、お願いがございまして、津波の避難の際の原則のお話をちょっと差し上げたいのですが、ちょっと今小さい図面ですけれども、平成25年にこの地区につきましても、津波のハザードマップというものを皆様とお話をしながら作りました。その際の原則は、まずは津波が来ない所まで皆様逃げてくださということで、このマップを作っております。これでいいますと、三条通よりも上まで行けば、北海道のシミュレーションでいきますと津波が来ないエリアです。私どもとしましては、まずは津波が来ないエリアまで逃げることを第一に考えていただきたい、より遠くへという概念です。もしそこが難しいときには、より高くということで、高いビルを目指していただくということです。東日本大震災のときに、

南三陸町というところで、静川病院ですかね、病院の上でずっと手を振っている景色が御記憶ある方いらっしゃるかもしれません。結局、津波が来るエリアで建物へ行ってしまうと、二、三日そういう状況になっちゃうのです。ただ、津波が来ないエリアまで行けば、その後は自由に動けるわけですので、そういったことも含めまして、私どもの方では、まずは遠くへ逃げてくださいということをお願いをした中で、平成25年にマップを作っております。ただ、もちろんいろんな現象がございますので、どうしても逃げ切れないときは、より高くへというふうに切りかえていただく。その際には、今言ったような、この文化交流センターについても、今そういう仕組みでお話はしておりますけれども、やはり万が一があったら困りますので、再度その部分の中については確認をさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

◆市民 まさかりで割ることについては、

◎市長 小中学校は職員が決まっているのでしょうか。

◎危機管理室主幹 はい。もうちょっと御説明しますと、このエリアでいいますと、文化交流センターもそうですし、教育・福祉センター、こういったものも津波避難ビルになっています。ちょっとあと距離ありますけれども、学校も津波の浸水区域の中の学校は、3階が津波避難ビルという位置付けになっています。ここでいうと東小学校とかがそうです。その学校につきましては、その学校の近くにいる3人の職員に地域指定職員という名称で、その学校、何かあったらすぐ開けるように指導しておりますし、そのうちの2名には鍵を渡してあります。ですので、学校についてはそういう仕組みができ上がっているのですけれども、文化交流センターについては、業者さんの方で開ける仕組みになっておりますので、ちょっと再度のお話になっちゃいますけれども、そこの流れについては、再度確認をさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

◆市民 まさかりで開けるということについては、

◎危機管理室主幹 あと、まさかりにつきましては、なかなか市の立場で割っていいですよとは、なかなか言いづらいところもありますけれども、最終的には命を守る行動というときにいろいろありますので、津波避難ビルに限らず、もう津波が来ているというときには、とにかく高いところを目指すということも必要になりますので、それはその時々に応じて、皆様方においても、最善を尽くしていただければというふうに思っております。以上でございます。

◎市長 万々が一、そういう事態になったら、多分、町内会長さんがやると思うのです。

◆市民 うち辺りでは、ここに逃げるよりも、指導されていますからね、津波はここと。でも、年寄りには膝が痛い、腰が痛いですよ。逃げるそのときに、あなたが言ったように、ずっと遠くまで逃げれといったって、誰がその年寄りの手を引いて逃げることができますか、自分が逃げるので精いっぱい。

◎市長 我々が思っている想定は、地震発生から津波第一波が来るまでに、約50分という前提でやっているのです、50分。すぐだったら、これはなかなか難しいです。その場合には、一時的に一番近くでまず一時避難をして、落ち着いたらさらにというのがありますけれども、我々、50分の前提というのが、そこが抜けちゃうと、皆さんやっぱり不安に思うと。

◆市民 自分逃げるのが精いっぱいだね。お年寄りとか弱い人の手を引いてそこまでできるかしら。魔の50分だよ。いや、いいです。

◎副市長 すみません、副市長の佐藤です。今、市長の方から約50分、津波が来るまでという想定なのですね。それで一番というか、もう一つ大事なのは、常日頃から逃げれる準備をしておくというのが一つあるのですよ。少しでも時間稼ぐために。起きてから、あるいは津波が来るぞというのを聞いてから、通帳どこだろう、印鑑どこだろうとか、懐中電灯どこだって、探す時間はきつくないです。

例えば、ちょっと私いつも持って歩いているやつ見せます。これちょっと強力なので、目向けるとつぶれますので、これぐらい明るいのです。今、明るいからこれぐらいの明るさなのですが、こうやって手持ちでも、物すごい明るい懐中電灯も今手に入りますので、是非こういうものを枕元に置けとは言わないのですけれども、家族の方がいつもここにあるよと。

あと、もう一つ大事なのが履物なのです。必ず履物を履いて逃げるとするのがすごく大事で、特に地震だとか起きるとガラスが割れて落ちたりだとか、いろんな破片がありますので、必ず靴を履いて、できれば軽いスニーカーとか、要は運動靴ですね。ああいうものもいいのですけれども、もう一度言います。家の中には、必ず避難するときに、ぱっと持って逃げれるようなものを用意しておく。通帳は隠しておかなければならないというのがありますので、それはお任せしますけれども、できれば普段生活に困らないようなものを、ぱっと持って逃げれるようなものを用意しておいて、あとは靴です。必ず靴を履いて、それから、これから寒い時期になりますので、うちはいつも玄関のところに外套とか必ず下げて、冬の間です。それを1枚羽織るだけでも自分の命を守れますので、まず大事なのは、自分の命は自分で守ろうというのが、まず一つ大事なことであります。

それと、確かにお年寄りになってくると、私もこう見えても64になってきて、だんだんじゅうたんにも、つま先がひっかかるような年になってきているのです。やはり脚力にもだんだん不安を持ちますよね。やっぱりだんだん歩くのも辛くなりますよね。でも、そのためにも、少しでも時間を稼いで逃げるということをいつも思っていて、準備をするということで対応いただきたいなど。もちろん、あと他には、近所の人たちと助け合って逃げるしかないのです、そこは声を掛けていただいて一緒に逃げるだとか、本当に50分ったらかなりな距離歩けますので、ゆっくり行っても。ということで、是非皆さん、そのところは理解してください。す

みません、よろしくお願いします。

○司会 それでは、その他にございますでしょうか。それでは、お願いいたします。

◆市民 市長さん、ちょっとよろしいですか。

◎市長 はい、どうぞ。

◆市民 お答えしてください。来年から始まる消費税のことなのですが、8%から10%になる。私、この間、市の方に電話したのです。総合案内の方から担当の方に電話回しますよと。ということは、消費税のことで聞いたのですよね。そうしましたら、苫小牧市は消費税は関係ございませんと。税務署でございますので、税務署に聞いてくださいと。このようなお話なのですよね。それで、まだ1年先といいますけれども、これからだんだんそういう問題が発生してきます。その度に税務署に聞いてくれと言われたって、市民とすれば、やはり困ったときは市役所、岩倉市長と、こういうふうになってくると思うのですけれども、その点について市長の考え方をお聞きしたいのです。

◎市長 大変貴重な御質問、ありがとうございます。

来年から、総理が先日記者会見でも消費税増税する、同時に軽減税率について、今非常に問題になっているところです。軽減税率については、まだまだ修正されながら来年に向かうかと思えますけれども、そのことについて市に問い合わせしても、税務署の問題だから振るなど、それは質問の系統によると思います。ですから、市民の皆さんが単純に疑問を感じたり、消費税の導入についていつ頃からどうなるかと、そういう質問がもし来たら、財政部でその程度は答えられます。ただ中身、例えば会社を営んでいる方から、その中身について軽減税率の細部について市に言われても、ここはまだなかなか新聞報道範囲ぐらいで答えるので十分ならいいのですけれども、その背景にある問題まで説明するという事はなかなか難しいので、そこは是非御理解いただきたいと思いますが、市民目線で消費税の問題について、ここどうなのだといった程度の話は、十分、財政部長で答えられますので、大丈夫かと思えますし、我々市の方も消費税増税については十分関心を持って、そのことが市民生活にどのような影響を与えるのか、あるいはまちの経済にどのような影響を与えるのかというのは、今から私自身も考えながらいろいろやっているところがありますので、          さんに御立腹されないような答え方を、今日、財政部長来ますから、今ちょっと財政部長、どうだろう。

◎財政部長 財政部長をしております斉藤と申します。

今、市長のお話があったように、なかなか我々も消費税は結構複雑な制度ですので、うまく答えられない場合もあります。そういったことがあると、逆に御迷惑をかけることにもなってしまいますので、ただ、まず消費税のどういったことを知りたいのかということを知った上で判断させてもらうと。今、多分恐らく消費税という言葉を聞くと、反射的にそれは税務署ですと答えてしまっているのではないかと



思います。今、市長おっしゃられたように、我々でも答えられるという範囲というものもありますので、そこは消費税のどういったことをお聞きになっているかということをしっかり確認した上で、答えられるものは答えさせてもらいますし、答えられなければ、税務署の方で我々が確認して答える場合とか、あるいは直接聞いてもらうとか、そういったふうに対応させてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 いや、私が電話したのは、市長が言うように、あくまでも市民目線での話をしたわけですよ。そうしましたら、いや、うちは関係ございませんと、税務署に聞いてくださいと、もう一方的にそういう言い方でしたので、もうちょっとお答えのしようがあるのではないのかなと思って、市長がいるから市長に聞いた方が一番いいのではないかと。

◎市長 市民の皆さんからのそういう対応については、言葉遣い含めて、あるいは来庁される方にも丁寧な説明等々は、市としてやっぱりやっていかなければいけないというふうに思います。本当にこれ以上カチンとさせて、また体を悪くしないように気を付けますので、お詫びします。

○司会 それでは、はい、お願いいたします。

◆市民 苦小牧ね、先ほど未来のまちづくりで、人口17万1,000人になって、全道で今4番目ですか。そういう中で、駅前整備とか何か一生懸命言われて、そして、いろいろな人から旅行した人とか駅で聞くと、苦小牧の駅前はどうなっているのですかという話なのです。最近も話をすると、このままいったら、あの駅、無人駅になるのではないかと、極端に言えば。そして、西の方が活性化いろいろしていますよね、イオンがあったり、それから沼ノ端の方。そういうふうになると、本当に駅前の商店も含めたまちづくりを早くというか、ある程度やらないと、駅もそうだし、駅の中の店もみんな閉まっちゃって、活性化も何もされていないということだね、最近、そういう無人駅になるのではないかという心配が、市民の我々飲み友達とかいろんな話をするときに、本当に真剣に苦小牧の駅前を商店も含めて、住民も含めて、行政も含めて、本当にどう考えて作ろうとしているのか。無人駅になってしまうのではないかという、最近ね。今まであまり聞いたことのないようなそういう声を聞くのですよ。その辺もし市長の考えがあればちょっと。JRの駅の関係もありますからね、簡単に言えないでしょうけれども、そういう心配事を口にする声を耳にするものですから、駅の近くに住んでいながら、ちょっと困ったなど思いながら聞いています。

◎市長 それは、来訪者だけではなくて、僕もこの町で生まれ育っていますけれども、我々だって、昔のことを知っている人間からすれば、本当に寂しい思いをします。ただ、それはやはりライフスタイルの変化とか、あるいは消費動向の変化等々がありまして、あるいは駅前が一つの商店街にしてみたら、やっぱり王子さんの社宅に

相当数の人たちがおられた。ヨシダさん、一番御存じでしょうけれども、それがどんどん今減ってきている。そして、なかなか魅力ある商店街形成ができていないということで、イオン周辺の、あそこに皆さん。しかし、あれができたおかげで、苫小牧の商圈は確実に広がっているのですね。苫小牧の最大の商業上の弱点は、人口と商圈人口が一緒だったのですね。それがなかなか難しいところだったのですが、今、確実に増えています。恵庭からもイオンに来たり、もともと日高は商圈ですけども、西胆振、伊達からも来たりしています。そういうプラス面があると同時に、既存商店街、特に駅前商店街がなかなか難しいということで、私自身も中心市街地問題、あるいは東西バランスの問題というのは、12年前から大きな問題として取り組んでいます。何とか、今もう間もなくあの自由通路がなくなります。駅前の雰囲気が変わっていくと思います。それからイルミネーション、いろいろ批判はあるかも分かりませんが、これやります。少しでも市民の皆さんに、全員が賛成することというのは、今の世の中、価値観が多様化していますからあり得ないので。しかし、何かほっとするような駅前を当面第一歩として作っていきたい。と同時に、サンプラザ問題を早く解決して、その次の新しいビルの開発について市ができるように、早くボールを市が持つようにやっていきたいということが1点。

もう一つ、最後になりますが、これも昔から苫小牧の方は分かりますけれども、しばらく高度成長期も含めて、沼ノ端、勇払、あるいは植苗の方たちがずっと文句を言っていたのは、職住分離政策で、どんどんどんどん公共施設が西側ばかりできていた。それで、特に沼ノ端の人たちは、もう本当に不満だらけの時代が続いたのですが、今はそれが逆転しているのですね。だから、僕は60年スパンで見てもらえば、今バランスとれているというふうに表現しているのですけれども、ただ、これからまだ人口は西側が多いのです、苫小牧。東側、沼ノ端3万人に間もなくなると言われてはいますが、それでもまだ西側の人口が多いのです。ただ、やはり人口構造、人口年齢構造が高くなっているのですね。そういう問題がありますけれども、しっかり東西バランス、あるいは中心市街地問題というのを、問題意識を持って取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、もう少し時間の猶予をいただければと思います。

○司会 それでは、その他にございますか。後ろの方、お願いいたします。

◆市民 すみません、もう一度、幸町の■■■■と申します。

大変失礼な愚問でございますが、このまちかどミーティング、どれだけのウエイトを置かれていますか、ということなのです。ということは、これは私、自分のミスで、今日という日にちだったか、昨日だったか、一昨日だったかちょっと度忘れしまして、メモもなくしたのです。今週の初め、アイビープラザに「まちかどミーティング、明日でございましたか、金曜日でございましたか。」と電話入れました。もちろん日中でございます、お昼間です、勤務時間中。「ちょっとお待ちくださ

い。」、約2分待たされまして、「今日でないことは間違いありません。」という回答でございました。「いつですか。」って言ったら、「ええ、それはちょっと。」ということで、「ああ、いいわ。」って電話切った次第です。そういうことがございました。指定管理者の施設管理という問題もありましようけれども、少なくとも市長、幹部職員の皆さんがおいでになるこういう集まりは、その指定管理者の職員全員がすぐ分かるように明記しておくとかという配慮が必要じゃないかなと思います。以上です。すみません。

◎市長 それは、おっしゃるとおりだと思いますね。市民にとって、市が直営でやっているから、指定管理が入っているから。こんなもの関係ないです。公共施設は公共施設、そこに問い合わせをしたら即答できなかったというのは致命的なミスだと思いますので、十分市の方の責任として、こちらの指定管理者に。

今ふっと思ったのですが、このアイビープラザのホームページに今日の日程入っているの、ホームページには。下手したら、入っていないのでないかなと思いつながら今聞いていたのですけれども、

◆市民 市のホームページにはちゃんと記載されています。

◎市長 市は入っていますが、ここの会場のホームページに入っているかどうかまで、やっぱり行政はチェックしていかないと駄目だと思いますので、修正します。

○司会 よろしいですか。それでは、そろそろ終了の時間に近づいておりますけれども、もし、どうしてもこれだけはという方。そうしたら、これで最後にしたいと思しますので、よろしく願いいたします。

◆市民 すみません、先ほど苫小牧の人口の話がありましたけれども、皆さんテレビ見ておられますね。私、暇人でございますので、毎日、テレビは朝から晩までというわけにはいきませんが、見ております。その中で、HBCだけが苫小牧の天候が入っていないのです、気象状況が。天候が、天気の関係が。それで、僕、HBCに電話したのです。苫小牧は北海道では4番目の大都市だよ、胆振、日高の拠点都市だよと。その都市がなぜ天気予報を入れないのだと。人口の差で入れる入れないのでないのだと、関係ないと。それじゃ何で入れないの、何の関係あるのですかと。いや、今、部長の方に聞きますからと。そんな電話待っていたら電話料金ばかりかかるから、いい、後で電話するわと、ぽっと切ってしまったのですけれども、何ていうのですか、皆さん方寂しいと思わないですかね。大都市の苫小牧が、他の日高や何かの町までみんな入っているのに、苫小牧だけ入っていないです、HBCは。他の局はみんな入っていますよ。

◆市民 それは、映すところがないからなんじゃない。

◆市民 まあまあ、それはそうでしょうね。そう言ってしまえば、それまでだ。そんなようなことでね、市長さんに頑張ってくださいと言ったって、これどうなる話でもないし、それはそれとして、情けない話ですよ。そういうことです。

◎市長 多分、NHKの場合には、その時間帯によって主なる都市というか、ここは気象台が室蘭にありますので、気象台設置の町を出す場合と細かく出る場合がNHKは分けていますが。

◆市民 胆振支庁とか日高支庁とかね、支庁のあるところはそれはそれで入っていますからね。

◎市長 ちょっとHBCに質問状を出して、その返事が来たら■■■■さんのところに持っていく。本当、これちょっとHBCに言ってくれる。これ担当どこ。市民生活部か。

分かりました。

○司会 それでは、そろそろ終了の時間が近づいてきておりますので、なければこれで終了したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、これで当日参加者との市政に関する意見交換を終了させていただきます。

最後に、終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 本当に幅広く多様な御意見、御質問をいただきまして、ありがとうございました。

今日も何点か毎回出てくるような問題もありましたし、やっぱり市民の皆さん、こういう問題の見方ということをされているのかというものもたくさんありましたので、大変我々も勉強になったまちかどミーティングだったかと思います。

1点だけ、今回震災がありまして、一昨日から私東京へ行って、港の問題とかいろいろのことをやってきました。それで、是非これ覚えておいてほしいのですが、今回9月6日、3時7分に地震があった直後から、フェリーは定刻運航できたのです。このことによって、非常に被災地支援に役立つことができました。なぜ西港は何でもなかったかという、やっぱり掘り込み港湾なものですから、非常に強いのですね。それに比べて東港区は埠頭の所が埋め立てしているものですから、液状化が発生しました。しかし、これは非常に復旧が早くて、コンテナ、北海道の約7割が苫小牧港から入ったり出たりしているのですが、それによって被害は発生したのですけれども、運航することはできた。

そこで、今回かなり53億ぐらいの被害、これ実質的にはもうあと数億増えることにはなりますが、これに対してなかなか国の補助メニューが今少ないものですから、何とか国の支援をお願いするということで。もう一つは、苫東さんが持っている埠頭もあって、ここもやられたのですね。ここは厚真火力発電所の一番大事な原料である石炭船が着くところなものですから、ここについて、これ民間バースなものですから、我々の港とはまた扱いが違うので、これについても国の方の助成について改めて考えてほしいということ、ずっと昨日の昼からやっていたのですが、ここもどうなるか分かりませんが、国の方も総理が先日記者会見で、いわゆる国土強靱化に向けて、3か年集中期間を作ってやるということはもう既に発信をしております。

す。

そういう意味で、我々も港の今補助メニューがない部分で、液状化対策について、早急に準備して政府の方に出したいなというふうに思っています。ただ、フェリーが直後から通常運航ではなくて定刻運航できた、災害に強い港をどうやって我々造るか、と同時に、万々が一、今回のように液状化になった場合に、復旧が早い港というのもこれから大事なポイントになりますので、是非、頑張っってやっていきたいなというふうに思っております。

最後になりますけれども、是非、いろんな意味でまちのこと、身近なこと、何かありましたら、町内会長さんにでも声を届けていただいて、市の方に声を是非、直接でも結構ですし、届けていただきたいなというふうに思います。

最後までお付き合いいただきましたこと、心から御礼申し上げまして、御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。